

小学校と中学校をつなぐ橋をかけたい ～「素地」を生かす小中連携相互出前授業～

1. はじめに

グローバル人材育成という大きな目標に向け、特に小学校の現場においては、週2時間程度の“教科”にむけ、目標内容の設定やモジュール学習の効果についての検討、英語免許を持たない小学校担任の先生方への研修の拡充、そして、国語科との急速な関連づけと、大きくそして新しい波が押し寄せているところです。小学校で6年間外国語活動を担当し、本年度中学校に戻って感じていることは、「最も優先すべきは、目の前に居る児童生徒を生涯にわたる”英語学習者”としてその一人一人の”英語学習の時間軸”を大切にすることではないだろうか」ということです。

前勤務校（小学校）では、数年前から、同中学校区の中学校の英語指導担当者と小学校の外国語活動担当者が協力して行う【相互出前授業】を実施してきました。これは、学期に一回ずつ、中学校の担当者が小学生に対し、また、小学校外国語担当者が、中学生になったかつての教え子達のもとへ赴き、出前授業を行うというプロジェクトです。小学校の時実際に指導を担当したわたくしが中学校へ出前授業を行う目的のひとつは、児童が、小学校5、6年の70時間、Hi, Friends! 1と2を活用しながら身につけてきた「素地」を十分に生かし、中学校における教科指導につなげるためです。当時外国語活動で慣れ親しんだ表現、チャンツや歌、または使用した教材などを効果的に中学校英語科の授業に組み込むことで、生徒のもつ「素地」やスキーマを有効活用し、中学校で身につけるべきコミュニケーション能力の「基礎」を豊かに育む一方策になればと考えました。



同学区の中学校英語担当者2名を招き、HRTと3人指導体制で行っている小6児童への出前授業



色や形、衣類をアイコンにした架け橋



中2



外国語活動の職員研修は全員で（小学校）

市内全中学校区の小中連携ワークショップ



1) Hi, friends! 1 L5 What do you like? と Sunshine English Course 1 Let's start 3 の架け橋

中学1年生になった卒業生に事前アンケートをとったところ、ライティングについて、すでに困り感を感じ始めている生徒が少なくないことが分かったため、苦手意識の軽減を目指した指導計画を立てました。外国語活動で楽しく行ったゲームや活動で使用した教材を使って導入し、円滑な基礎力の定着を図ることにしました。授業は、中学校の指導担当者とのTTで行いました。

生徒は、それらの教材を目にするとすぐに、当時歌っていたチャンツや、その時行ったタスク活動（オリジナルのコーディネートをはめ合おう！）を思い出し、「その時、〇〇さんのコーディネートがすごく評判良かったですよね。」などと嬉しそうに話し出し、関心を高めてくれました。そこで、「その活動の時、どんな英語を使っていたか覚えているかな。」と投げかけると、次々に色や形、褒める表現や歌っていたチャンツを既習事項として自ら掘り起こしたり、友だちと共有したりすることができていました。



外国語活動でよく使用していたルーレット



英語ノート1の教材を導入に生かす工夫

2) Hi, friends! 1 L9 What would you like? と Sunshine English Course 2 Power-up 4 Would you like anything else? との架け橋

小学校5年生の時に行った「英語村のパフェ屋さんになろう」で実際に使用した、疑似店舗ブースや帽子、ピクチャーカードを使って導入を行いました。タスク活動の場面設定を発達段階に合わせてグレードアップさせ、「ハワイのファストフード店でアルバイトするための事前シミュレーションをしよう」という課題設定をしました。実際に注文する際の表現や、サイズの言い方を思い出させた後で、Anything else? など言えるようになっておきたい表現について調べました。May I help you? については、耳が覚えていたようで、ある生徒は、「メイアイヘルプユーって、助動詞のMayだったんですね！」とい目を輝かせていました。素地が基礎力として繋がった素敵な例だと考えます。



外国語活動のデジタル教材コンテンツの有効利用

3) Hi, friends! 2 Lesson8 What do you want to be? と Sunshine English Course2

My project⑤[こんなひとになりたい]との架け橋

前任校の小学校では、国語科や総合学習の時間において、プロジェクト型の活動が活発に行われていました。外国語活動でも、スカイプを使った台湾の児童とのコミュニケーションプロジェクト（※参考資料Ⅱ参照）をはじめ、6年生を送る会ではオリジナルの英語劇（※参考資料Ⅲ参照）を発表したり、卒業を祝う会では、保護者や地域の方に向け、英語で夢宣言を行う活動をしたりしていました。この夢宣言は、卒業を控えた6年生一人一人が、英語で将来の夢や希望を語るもので、発表の様子はタブレットで動画に納めてありました。今回の出前授業では、これらの動画を活用することにしました。中学校2年生になった生徒たちが、英語科で過去形を学び、総合的な学習の時間で職場体験学習を終えた時期に合わせて、出前授業を行いました。生徒は、小学校6年生の時の自分の夢宣言を視聴し、驚いたり喜んだりしていました。授業では、それを過去形に変え、現在の夢と合わせて発表することをめあてとしました。（例：“I wanted to be a nursing teacher, but I want to be a teacher now.”）生徒が自ら自分の素地を活用し、今学ぶべき過去形の学習の定着につなげられる活動になりました。

もう一つの成果もありました。後日、中学校の担当者からは、「この出前授業の後すぐに接続詞の When を扱った時、生徒達がとても自然に、When I was a in the six graders, I wanted to be ～.という表現にスムーズにつながっていたので驚きました。教える必要がありませんでした。」という報告を貰うこともできました。

4) 特別授業 「懐かしのカラーツイスターに再挑戦！～ほくたち成長したね～」

小学校5年生の時から担当してきた子ども達を、中学校に入ってからも追いかける形で出前授業を行ってききましたが、中学校の卒業式を控えた生徒に、最後の出前授業でやりたいことがあるかアンケートを取ったところ、「カラーツイスター」というゲームをもう一度やりたいという意見が多く出されたので、要望に合わせた特別授業を行いました。導入では、5年生の時このゲームに興じている自分たち動画で視聴し、使用していた英語表現に注目しました。視聴後、生徒は、“Right hand, go yellow!”と言う、いわゆる簡素化した英語表現だったことに気づいたようで、話し合いの末、中学生らしく、習った英語に敬意？を表し、正しく適切な英語表現でゲームに臨もうということになりました。例えば、ゲーム中に使用するであろう表現を今一度見直そうと言うことで、“Put your right hand on yellow circle.”のような定型文を作ったり、ゲーム中の励ましの表現についても、当時は“Go! Go!”程度だったが、今ならば、“Hang in there!”も知っているからそれを使おう、としたりする様子が見られました。小学校の時に楽しみながら育んだコミュニケーション能力の素地をまさに自分たちで活用し、中学校で学んだコミュニケーション能力の基礎の部分を復習しつつ、また、自身の成長を実感できるという素敵な時間になりました。



小5、ツイスターゲームを楽しむ動画（発話のスレッド付）や画像を視聴



中3らしい英語表現を皆で検討して再挑戦。裸足で本気モード。

